

R5年度 奄美群島子ども環境学習助成事業活用報告

【瀬戸内町】

伊須の田んぼと仲良くなろう～マコモ栽培体験を通して自然を学ぶ～

(伊須集落役員会)

日 時：令和5年9月30日

場 所：瀬戸内町伊須集落前田（田んぼ池）

対象者：嘉鉄小学校校区在住親子（子ども：12人 大人：8人）

内 容：いきもの観察会

マコモが育つ伊須集落の田んぼの周りで、自然や生き物に詳しい岩切敏彦先生と、生き物や植物を観察し、その後公民館にて、奄美の自然や生き物に興味を持てる座学を行った。

日 時：令和6年3月27日

場 所：瀬戸内町伊須集落前田（田んぼ池）

対象者：嘉鉄小学校校区在住親子（子ども：10人 大人：17人）

内 容：マコモ植え体験

伊須集落に残る昔ながらの田んぼ地で、島唄（義永陽子さん）を味わいながら、南重喜さんの指導のもとマコモの田植え作業を体験。五感を使って自然を味わい、かつての島の暮らしに思いをはせる機会も持てた。



2023.9.30
伊須の
いきもの観察会



子ども11名
大人12名
参加合計23名

ありがとうございました



【瀬戸内町】

環境学習活動（雨庭の島）

日 時：令和6年2月22日～28日

場 所：

- ・ゲストハウス奄美ロングビーチ2（奄美市小宿）
- ・みどり厚生事業所カフェ馬小屋（奄美市名瀬小宿）
- ・島めし屋かのう（瀬戸内町篠川）
- ・がじまる茶屋（宇検村湯湾） ・万寿果（龍郷町浦）

対象者：嘉鉄小学校校区在住親子（子ども：30人 大人：72人）

内 容：

- ・海と山とつながり
- ・海藻の重要性
- ・海洋地下水を使った塩の作り方
- ・海藻や海洋地下水を使った植物の育て方



R5年度 奄美群島子ども環境学習助成事業活用報告

【伊仙町】

環境学習活動（徳之島ゲストハウスみち）

日 時：令和6年1月14日

場 所：徳之島かんかんファーム

対象者：小学生～高校生及び保護者（子ども：7人 大人：13人）

内 容：世界自然遺産にも登録された徳之島で、島の自然と聞いてまず思い浮かべるのはアマミノクロウサギをはじめとする希少動物である。しかし同時に、徳之島は奄美群島内でも最大の農地面積を有する農業の島でもあり、島内のサトウキビ生産量が鹿児島県全体の40%を占めている。島の子どもたちにとっても、サトウキビ畑のない校区は存在せず、非常に身近な自然景観として親しまれている。しかし、かつては誰もが「おやつにして齧っていた」というサトウキビも、収穫の機械化と農業従事者の高齢化に伴い、子どもたちが、実際に触れる機会が少なくなっている。子どもたちにとって最も身近な自然であるサトウキビに触れ、島の農業やサトウキビをめぐる歴史文化と、島民がどのようにして自然の中で生きてきたのかを学んでもらうことを目的として、サトウキビの手刈り体験と、伝統的な方法での砂糖炊き体験を実施した。昨今ではアマミノクロウサギの生息数の増加とともに農業被害なども問題になっているため、農作業に親しむことで自然との共生について考える機会にも繋がることを期待できる



【伊仙町】

環境学習活動（こどもガイド育成プロジェクト）

日 時：令和5年8月17日～18日

場 所：伊仙町立東公民館、面縄港

対象者：小学5年生から中学1年生（子ども：7人 大人：6人）

内 容：自分たちの暮らす集落で、自慢したい伝えたい自然、植物や海岸を調査し、気になる生き物に出会うのも狙い、研究発表できる取組を行った。



R5年度 奄美群島子ども環境学習助成事業活用報告

【和泊町】

環境学習活動（あしまなの木）

①日 時：令和5年12月23日～24日

場 所：ネイチャーゲーム（越山展望台：23日）ビーチコーミング（島内の浜：24日）

対象者：沖永良部島内の未就学児から高校生（子ども：22人 大人：10人）

内 容：【ネイチャーゲーム】自然の中で自然を使って遊び、自然を感じる事が出来るネイチャーゲームを実施。見る・効く・触る・匂いを嗅ぐなどの感覚を使って、からだ全体で今まで知らなかった自然界の面白さや不思議さを体験できる。それにより伸びる力は以下4点。・身近な自然への好奇心が芽生える・「なぜ？」と感じた事を自分で考える事ができる・ありのままを受け入れ、自己表現する・人それぞれの考え方や行動を尊重する。

五感を使った自然体験により、子供の豊かな心を育みのびのびと成長する為の土台を作ることが狙い。講師はビーチクリーン活動（beach cleanup okinoerabu）、伝統芸能（あしび踊り）と島ムニ継承活動、和泊町育成会活動等、積極的に子供たちとの活動にかかわる町田美子氏に依頼した。

【ビーチコーミングと海岸生物の観察・記録】島の子供たちを対象にビーチコーミングをする。沖永良部の海岸に流れついた漂着物を分類わけし、どこから来たのか？その物はいったい何なのか？を考え、漂着ごみを含めた海洋環境に興味を持ってもらうことが狙い。海岸植物の観察、記録では、ビーチコーミングをしながら海岸生物の写真を撮り、その場で印刷。図鑑でその生物を調べ、「〇〇海岸でみつけた生物」として記録する。講師は、徳之島の生物調査研究と子育て世代への環境教育に取り組む、阿権浜しぜん館館長の西村奈美子氏。

